

鹿児島県青少年国際協力体験事業

●協働先 NGO/NPO

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会
青年海外協力隊鹿児島県OB会

(財)自治体国際化協会 自治体国際協力促進事業 助成対象事業

実施地域

マレーシア、インドネシア、
タイ、ベトナム、ラオス

事業実施期間

1991年～継続中

協力形態

事業協力

事業目的/背景

鹿児島県の青少年を開発途上国に派遣し、そこの国づくりに貢献している青年海外協力隊員の活動現場訪問で国際協力に対する理解を深めるとともに、ホームステイでの異文化体験や学校、施設などでの交流を通して相互理解を深め、国際性豊かな人材を育成することを目的としている。

実施内容

県下一円に公募すると共に、県内の中学校、高校等へも募集し、書類選考や面接等を経て、派遣団員が決定される。決定後は、2回の事前研修を行い、派遣先の言葉や文化、習慣、歌などを学び、日本の文化を紹介するための準備もする。また、帰国後は、現地での体験を報告会で発表し、関係機関や協賛企業へ表敬訪問をする。そして、事前研修から報告会までの内容を含めた報告書の作成をする。

(参考) 2010年度実績 派遣国 インドネシア共和国 8月1日～8日
中学生3名 高校生10名 計13名派遣

協働のきっかけ

青年海外協力隊員の活動現場や現地ホームステイでの異文化体験、現地学



校や施設などでの異文化交流を通して、子ども達の国際理解・国際協力についての理解を深めてもらおうと始めた。現在は、共催市からの推薦、企業からの協賛も得ている。

役割分担

自治体側：

JICA 関係以外の連絡及び調整、その他の事務処理

NGO/NPO 側：

JICA や青年海外協力隊員との連絡及び調整

協働によるメリット等

メリット：

- ・長年の経験と実績に基づいた手法がある
- ・連携により情報収集がスムーズ

デメリット：

- ・協会だけで判断できないことが多く、連絡や調整に時間がかかる

協働する上で配慮した点

年3回開催する実行委員会で、事業の経過報告やスケジュール進行の確認を行い、連携をとるよう努めている。

事業評価／今後の展望

帰国後は、東南アジアでの体験を報告会などを通して学校や地元に戻し、地域レベルでの国際化に寄与するものとしている。また、参加団員OB・OGに記入してもらったアンケートを見てみると、その多くが、「進路を考える上でとても良い影響を与えてくれた」とこの事業をふりかえっている。また、「海外で働いた」「海外でボランティア活動をした」「医療の道に進んだ」「学校教諭になった」「青年海外協力隊に参加した」という方がたくさんいることも分かった。当事業が国際性豊かな人材を育成することを目的としているという趣旨どおりになっていることが分かる。



今後もより多くの青少年達にこの貴重な体験をしてもらえるように、限られた予算ではあるが、中身の濃い事業をしていきたいと考えている。



その他の連携事例

(特活)難民支援協会

難民が安心して、日本で自立した生活を送れるように、難民のニーズに総合的に対応できる専門団体の必要性を感じ、1999年に設立。難民への法的・生活支援、難民についての政策提言、調査・研究、難民についてのセミナー開催や広報活動などを行っている。

難民支援協会では、新宿区からのNPO活動資金助成により、区民に向けた「在日難民に関するセミナー」を2010年に2回実施した。新宿区には、ビルマ人を中心とした多くの難民が住んでいるため、本セミナーは区民に難民をより「身近な存在」と感じ、理解してもらうことを目的としている。当協会では、区在住の難民に対する情報提供に留まらず、区民に向けて情報を発信することで、区民と難民の相互理解を促進していきたいと考えている。また、新宿区と協働することにより、自治体とタイアップ



したイベントを開催することができるため、より多くの区民からの参加を得ることができている。一方、支援の現場レベルでは、言葉の問題などの理由から、外国人が一人で自治体の窓口へ相談に行っても意思疎通できないといった課題があるため、今後は自治体・民間団体が協働し、通訳の充実など外国人へのサービスや施策の拡充へ向けた協働の場を増やしていきたいと考える。

(特活)難民支援協会 統括室 櫻井 美香

その他の連携事例

(特活)ACTION

こどもたちと地域の可能性を広げることを理念とし、フィリピンと日本で活動を行っています。フィリピンでは孤児院、盲ろう学校、ストリートチルドレンのこどもたちの支援を行い、日本ではチャリティショップの運営や国際理解教育を行っています。2010年度地球市民賞受賞。

武蔵野市教育委員会主催の土曜学校「世界を知る会」は小学生向けの講座で、武蔵野市内に事務所があるACTIONは講師として関わっています。6月から12月の全10回の講座を通して参加するこどもたちは世界の様々なことを学



びます。講座では「世界がもし百人の村だったら」や「貿易ゲーム」などのワークショップを行い世界にある問題に目を向けたり、武蔵野市に住む外国人の方を招いてその国の文化を体験したりします。その中で日本のこどもとフィリピンのこどもがパートナーを組み、文通やビデオレターで交流を行うプログラムがあり、ACTIONは主にその交流をコーディネートしています。

自治体と協働することの一番の魅力は、フィリピンのいい部分をより多くの日本のこどもたちに知ってもらうことができる点です。フィリピンで活動を初めて17年、様々な支援を行ってきました。それらはフィリピンのこどもたちと地域の可能性を広げるための活動でしたが、活動を通じて日本にはないフィリピンのいい部分をたくさん見つけました。そこで、日本のこどもたちにもフィリピンのいい部分を伝えたいと思った時に、ACTIONは多くのこどもたちに伝える術を持っていませんでした。

土曜学校「世界を知る会」の講師となることで、フィリピンのいい部分を知り、ACTIONの活動にも興味を持ってくれる武蔵野市のこどもが増え、地域に根付いた活動の幅が広がりました。

(特活)ACTION 国内事業担当 長田 幸子